

道路技術小委員会 道路土工構造物分野会議 からの報告事項

道路技術小委員会 道路土工構造物分野会議 座長報告

◇ 「道路土工構造物技術基準」の改定にあたり、「道路土工構造物分野会議」において、専門的見地から検討したので、その状況を報告する。

◇ 道路土工構造物分野会議の論点として、

① 現場で生じている課題に対する具体の対応方策

② 道路機能を確保する観点からの性能規定の充実

などについて、審議を行ってきた。

◇ これらの検討事項について、道路土工構造物分野会議では、以下のような意見があった。

【道路土工構造物分野会議における主な意見】

①現場で生じている課題に対する具体の対応方策

- ・ 道路機能を確保するために計画において配慮すべき事項について、近年の災害を踏まえ記載を充実していくことが望ましい。
- ・ 想定する範囲内で作用する可能性が高い荷重の組み合わせについて、最も不利となる条件が考慮できるように、なるべく具体的に示していくことが重要である。
- ・ 各道路土工構造物の排水については、必要性の高い排水施設について具体的に示すことが重要である。
- ・ 計画、調査、設計、施工、維持管理を通して性能確保の確実性を継続的に向上させる（不確実性を段階的に低減させる）という考え方は重要である。
- ・ 「地質・地盤の不確実性」は、施工等の不確実性も含まれるようにすると良い。
- ・ 各段階での記録の保存において、必要な項目を具体的に示すことが重要である。

②道路機能を確保する観点からの性能規定の充実

- ・ 道路土工構造物には様々な設置目的・構造形式の構造物が含まれるため、必ずしも「構造物の状態」＝「道路の機能」ではないことから、「道路ネットワークとしての機能」を確保するためには、道路土工構造物の性能を構造物の状態だけではなく、道路機能への影響を含めて規定する必要がある。

（次頁へ続く）

(前頁より続き)

- ・ 要求性能に応じて新たに設定する限界状態については、多種多様な土工構造物の具体的なイメージを明確にすることが有効である。
- ・ 性能照査の方法に関して、既往の経験・実績から妥当と見なせる手法等とそれにより確保される性能や限界状態との関係を具体的に整理することが必要である。
- ・ 稀な豪雨等の「不測の外力」への対応を意識していくことは重要である。

◇ 今後、継続して取り組むべき課題として、以下のような意見があった。

【道路土工構造物分野会議における主な意見】

- ・ 盛土の性能確保の観点からの路床の強化について、舗装とも連携した検討が求められる。
- ・ 大規模地震と豪雨といった複合災害への対応は、道路構造物の技術基準とともに、緊急点検や通行規制、迂回路の選定等も含めて検討することが必要である。
- ・ 道路ネットワークとして求める機能について、橋、トンネル、土工構造物を含め、引き続き、統一的な検討が必要である。
- ・ 今後、実務者に分かりやすく理解してもらえるよう配慮した説明資料が求められる。

道路技術小委員会 道路土工構造物分野会議

【有識者】

◎:座長

笹原 克夫 高知大学 教育研究部 自然科学系理工学部門 教授

◎ 常田 賢一 大阪大学 名誉教授

宮田 喜壽 防衛大学校 システム工学群 建設環境工学科 教授

【実務者】

阿部 善明 新潟県十日町市 建設部 建設課長

岩切 昭義 日本測量調査技術協会

上野 将司 全国地質調査業協会連合会

大粒来茂樹 建設コンサルタント協会

金田 和男 (株)高速道路総合技術研究所 道路研究部 斜面防災研究担当部長

東野 竜哉 国土交通省中部地方整備局 道路部 道路保全企画官

富田 雄一 (株)高速道路総合技術研究所 道路研究部 土構造物研究担当部長

中原 伴章 三重県三重郡菰野町 都市整備課 工務係長

松本 邦治 奈良県 県土マネジメント部 道路マネジメント課 課長補佐

【審議状況】

第22回 令和6年10月11日

第23回 令和6年11月14日